

大河 再発見

後編

散歩やサイクリング、スポーツ、釣りや野鳥観察を楽しむ水辺の風景——豊かな水と緑あふれる利根川には、気持ち安らぐ空間が広がっています。「子供のころはよく川で泳いで遊びました。川とのふれあいを大切にしたい」というアウトドア派エッセイスト、三好礼子さんと香取郡・東庄町立石出小学校の子供たちは魚道を観察したり、ヨシ原を探検しながら利根川下流の豊かな自然を体験し、サイクリングを楽しみました。

魚道

水辺は体験の宝庫

楽しみながら「お互い」を理解

銚子の河口から約18・5km上流にある利根川河口堰（せき）の東庄町側には、階段式の魚道が設けられています。道は高速道路のようなもので、テナガエビやモクズガニ、泳ぐ力の弱い魚たちには「不便」なため、その隣に「多自然魚道」がつけられ、今年3月に完成しました。魚たちのための場所なので普段は立ち入り禁止です。「若者がたくさんあつて魚たちが住みやすくなる」うだねと穴田慎太郎君、自然をモデルに作られ、魚たちの隠れ場所。

魚たちも便利だね

「よく見ると、たくさんの魚たちがいることがわかりますよ。」

根川下流河川事務所の小栗幸雄さんが指さす水の中には、体長3センチのヌマチチブが石にはりついています。三好さんは魚の多さに驚き、子供たちは歓声を上げながら魚を観察する。また魚道に戻してあげました。

堤防があるから安全

東庄町にあるコジュリン公園には、昔の利根川を再現した「じゃぶじゃぶ池」や野鳥観察舎、遊歩道があります。コジュリンとは、

「おじいさんから水害の体験話を聞いたことがある」という高安真輝君は「堤防があるから住んでいる人が守られてるんだ」と改めて思ったそうです。

「これは準絶滅危惧（きん）種のミズアオイ。イクサに似てるけど、葉が丸いのがホタルイ、三角なのがサンカクイ。ヒガンバナは花が咲いてから葉が出るのでオバケバナとも呼ばれるんだ」という小栗さんの説明に全員がうなずきました。

「こんな植物が生きていいることが分かった」という堀江絃人君、青柳拓志君は「自分が住んでいる町にも稀少植物があるんだ」と驚きました。

「これは準絶滅危惧（きん）種のミズアオイ。イクサに似てるけど、葉が丸いのがホタルイ、三角なのがサンカクイ。ヒガンバナは花が咲いてから葉が出るのでオバケバナとも呼ばれるんだ」という小栗さんの説明に全員がうなずきました。

「これは準絶滅危惧（きん）種のミズアオイ。イクサに似てるけど、葉が丸いのがホタルイ、三角なのがサンカクイ。ヒガンバナは花が咲いてから葉が出るのでオバケバナとも呼ばれるんだ」という小栗さんの説明に全員がうなずきました。

「これは準絶滅危惧（きん）種のミズアオイ。イクサに似てるけど、葉が丸いのがホタルイ、三角なのがサンカクイ。ヒガンバナは花が咲いてから葉が出るのでオバケバナとも呼ばれるんだ」という小栗さんの説明に全員がうなずきました。

「これは準絶滅危惧（きん）種のミズアオイ。イクサに似てるけど、葉が丸いのがホタルイ、三角なのがサンカクイ。ヒガンバナは花が咲いてから葉が出るのでオバケバナとも呼ばれるんだ」という小栗さんの説明に全員がうなずきました。

「これは準絶滅危惧（きん）種のミズアオイ。イクサに似てるけど、葉が丸いのがホタルイ、三角なのがサンカクイ。ヒガンバナは花が咲いてから葉が出るのでオバケバナとも呼ばれるんだ」という小栗さんの説明に全員がうなずきました。



ヨシ原探検。珍しい植物との出会いがあった。左から青柳拓志君（6年）、堀江絃人君（6年）、高安真輝人君（6年）、三好礼子さん、穴田慎太郎君（6年）、宮内正人君（5年）

リポーター 三好 礼子さん

Essay エッセー

川と育つ子供たち ‘生きた感想’に同感！

今年の6月、思い切つて「山村レイコ」の仕事名を本名に戻したのは、未来に向かって流れる人生のペースを「あの頃のすごさで元気で感受性いっぱいだった自分」に置きかてたからでした。あのことば、豊かな海と山と川との真ん中で育つた幼少のころ。毎日のように土

林宣彦監督がいたら、間違いないスカウトするであろう素朴さと子供供らしさと好奇心を持った好少年たちだった。それは、目と頬（笑顔）で分かった。そして、サヨナラする時に私は、なんだかせつなくてたまらなかつた。「もつと遊びたいよわー」。

想像以上に目を輝かせていた多自然魚道や湿地環境に再生されたヨシ原。燃えたサイク



多自然魚道から利根川河口堰をのぞむ

東庄町のメー・ジカラクタリ コジュリン君

「タン・バイ・ミー」が、幾度も頭をよぎる。愉快な「ほう」に、笑い、感想に「ほう、そう来たか」「へえ、意外だなあ」などと、びっくりした感心したり。子供だからその鋭い視点や感想を持つていいるし、当たり前だが、みんないろんな考えを持っていること。とにかく、い

「ふれあい水路」には、ほかに「ふれあい水路」のカヌー乗り場、湿地でのバードウォッチングなど水遊びや自然とふれあえる施設がそろっています。



魚道を観察「こんなにたくさんの魚がいるんだ」

自然の力ってすごい

ヨシ原

胸の高さであるヨシをかき分けて進む子供たち。「子供のころ

胸の高さであるヨシをかき分けて進む子供たち。「子供のころ

胸の高さであるヨシをかき分けて進む子供たち。「子供のころ

胸の高さであるヨシをかき分けて進む子供たち。「子供のころ

胸の高さであるヨシをかき分けて進む子供たち。「子供のころ

胸の高さであるヨシをかき分けて進む子供たち。「子供のころ

胸の高さであるヨシをかき分けて進む子供たち。「子供のころ

胸の高さであるヨシをかき分けて進む子供たち。「子供のころ

胸の高さであるヨシをかき分けて進む子供たち。「子供のころ

広告

首都圏の暮らしを支える利根川

利根川の水は、用水路、導水路を通じて広がり、水道用水、農業用水、工業用水としてさまざまな形で利用されています。なかでも水道用水については、首都圏で使われる水の大部分が利根川に依存しています。特に東京都の場合、水道水の年間取水量に占める利根川の割合は、4分の3に上ります。利根川下流部からは、香取市にある両総用水、東庄町の大利根用水が、九十九里平野地域へ農業用水を供給しています。我孫子市市布佐から松戸に通じる北千葉導水路は、江戸川へ水を送り、水道用水や工業用水として利用されています。

水辺は憩いとふれあいの場

利根川は私たちの暮らしや産業を支えるだけでなく、雄大な水と緑あふれる水辺の空間には、気軽に自然とふれあえるレジャーや憩いの場所としての役割もあります。利根川下流部の河川敷には親水公園や運動公園などが点在しており、私たちの暮らしに欠かせない「憩いと安らぎを生む空間」として親しまれています。また、利根川の文化を伝える各種資料館もあります。また、利根川下流には、野鳥が生息する自然観察地も数多く、ハヤやフナ、タナゴ、ボラなどさまざまな種類の魚も生息しており、バードウォッチングや家族連れの釣り人などでにぎわっています。

国土交通省関東地方整備局 利根川下流河川事務所

☎0478-52-6366 <http://www.ktr.mlit.go.jp/tonage>



「水の郷」からサイクリング

豊かな流れをたたえる利根川を眺めてリフレッシュ。利根川下流の堤防上は、ほぼ全域にわたって舗装されたサイクリングロードや歩行者道が整備されており、マラソン、ウォーキング、サイクリングを楽しむ多くのみなさんに利用されています。香取市佐原にオープンした「水の郷さわ



サイクリングを楽しむ三好さんと子供たち

ら」には、サイクリングを手軽に楽しめるようレンタサイクルが用意されています。高速道路の東関東自動車道（東関東道）が走る利根川橋まで足を延ばせば、橋を渡って対岸へ行くこともできます。直下に利根川を望む橋の眺めは迫力満点。「水の郷さわら」には、ほかに「ふれあい水路」のカヌー乗り場、湿地でのバードウォッチングなど水遊びや自然とふれあえる施設がそろっています。